

開化日用文庫

持34

304

一册

大日本教育會書館		
第三室		
一册	三架	五函

深澤菱潭輯書

開化日用文大全

東京 耕文堂發兌

開化日用文目錄

○ 新年啓 しんねんのけい 同後 ヘンジ

○ 元始祭啓 げんしさいの 同後

○ 寒中啓 かんちゅうの 同後

○ 約書遊啓 やくしょゆうの 同後

○ 邀賓花啓 やうひんはなの 同後

開化日用文

深澤菱潭輯書

開化日用文大全

東京

耕文堂發兌

開化日用文目錄

○ 新年啓 しんねんのけい 狀 ネントウ

同復 ヘンシ

○ 元始祭啓 げんしさいの 啓 ゴサイジツ

同復

○ 寒中啓 かんちゅうの 啓 カンチウ

同復

○ 約書遊啓 やくしょゆうの 啓 ノカケテ

同復

○ 遊書花啓 ゆうしょはなの 啓 ハナニ

同復

○ 送花弁啓

ハナヲ
オクル

同復

○ 贈彩茶啓

シレンヤヲ
オクル

同復

○ 約遊歩啓

ユサンニ
サツカ

同復

○ 梅雨中啓

ツユニマヒ

同復

○ 暑中啓

アツサニマヒ

同復

○ 約乘涼啓

スヅミニ
サツカ

同復

○ 中秋啓

ツキミニ
ツカハス

同復

○ 天長節啓

テンチヤカ
セツクイハヒ

同復

○ 至日啓

トウジニ
ツカハス

同復

○ 雪中啓

ユキニマヒ

同復

○ 歳暮啓

セイボ

同復

○ 賀人慶啓

コシレイ
ノイハヒ

同復

賀得子啓 ガキトウコノケ アセガシ 同復

賀誕日啓 ガキトウジツノケ タシジヤウ 同復

賀新築啓 ガキトウシンチクノケ フシシノ 同復

賀入學啓 ガキトウニガクノケ ニフガク 同復

賀仕官啓 ガキトウシクワンノケ ハイメイノ 同復

約小飲啓 ヤクコウインノケ サケニテ 同復

謝踵百啓 シヤクシュウヒャクノケ ヨハレシ 同復

召不赴啓 シヨウフシュノケ コトハリ 同復

懇貸借啓 コンカイクノケ モノチカリ 同復

慰火災啓 ヱイカサイノケ クハシ 同復

慰病卧啓 ヱイビヤウキ ビヤウキ 同復

請醫養生啓 シヨウイシヤウノケ イシヤウ 同復

- 慰居喪啓 シマカウサウキ 同復
 - 贖旅勅啓 トシキセキ 同復
 - 贈友人啓 オクウヨウジンキ 同復
- 以上

- 法御券目録
- 地券書入信用金總
- 信用金總
- 預り金總
- 年賦金總
- 為換金總
- 或金總

- 少くも長き有徳の
- 身許引受
- 儀入請状
- 家化臺後之儀
- 奉買約定書 日付付之儀
- 田租借物之儀

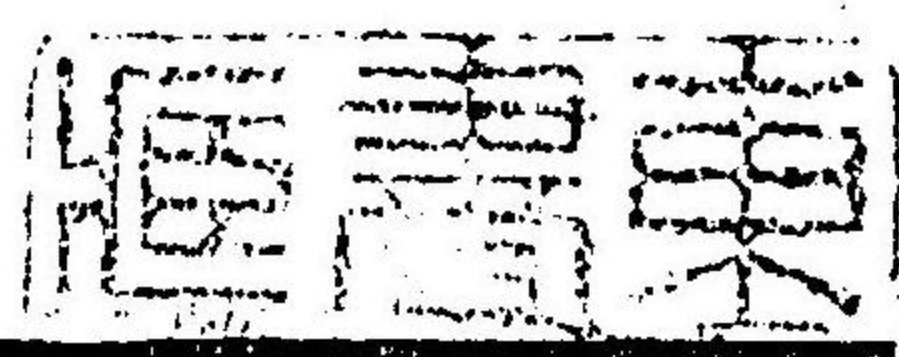
己之

開化日用文

○ 新年啓

啓事 年々交り易く
 風和夜中納る先
 高飯の梅流沙更社

深澤菱潭輯



開化日用文

車馬心懷小次
踏案仕且止
情了且止
詞上之方
家白

○回復

復新
素瑞
玉在
像幸

甘々美坊の心蓮の心様
 正放念を仰ぐ山人名
 新獲の老又辭しと友
 且生るる如新の在る海云
 ○元始祭啓

ありて元始祭の対照回
 僚お深集令新快を
 極め及有る既漸と出
 席の獲るる多しと所
 正未深しと直彼と再

回樓めいろう之轉音てんおん傳でん入いり
念年ねんねん之口誤こうご引ひ去き後ご
之安やす之統と幸しゆ福ふく
不ふ過と之幸しゆ海かい白はく

○回渡

薰いん之建けん之好こう酒しゆ信しん之陳ちん若じやく
元げん始し之有ゆう之於お於お系けい樓ろう之
直ちく款くわん合ごう之の拙せつ子し之
不ふ之海かい同どう之是ぜ之口こう誤ご傳でん
之不ふ之亦よく之幸しゆ海かい之北ほく之通と之好こう之
之

了仕^し之^し支^し折^せ布^ふ支^し之^し履^履
^し之^し支^し之^し急^急問^問命^命之^之一^一条^条
^し之^し支^し之^し辨^辨用^用改^改身^身系^系
^し之^し支^し之^し同^同款^款寬^寬之^之語^語之^之仕^仕
^し之^し支^し之^し也^也

○寒中啓

尺^尺素^素持^持之^之仕^仕之^之智^智之^之心^心
^し之^し支^し之^し急^急問^問命^命之^之一^一条^条
^し之^し支^し之^し辨^辨用^用改^改身^身系^系
^し之^し支^し之^し同^同款^款寬^寬之^之語^語之^之仕^仕
^し之^し支^し之^し也^也

體製造仕此乃寸程
善煉台字集一也困
減亦似來一也
乃乃乃乃乃乃乃乃
仕乃乃乃乃乃乃乃

功也減後乃乃乃乃
之也幸河乃乃乃

○回復

強汗持完如高術
烈之胃骨毛乃乃乃

活法清穉ニ在彼ノ習ハ心
 竭ク有リ知ル時ニ先
 必シ書シ品ヲ惠シ贈ル下
 直ニ後ニ依テ大ニ成ル成
 掃ク淨ク平ク在リ謝ス

右用法少ク直ニ成ル成
 新ク及テ厚ク依テ成ル成
 新ク及テ華ニ後ニ成ル成
 新ク及テ成ル成ル成ル成
 新ク及テ成ル成ル成ル成

旬しゅん不ふ建けん

○狗いぬ春はる遊あそ遊あそ啓けい

美ぞ色ん控くわ乳に流りゅう骨こつ骨こつ骨こつ
生せい好こう時じ舌しつ舌しつ舌しつ舌しつ
若わ来らいのの粗そ風ふう妒ど為な為な為な為な

遺い憾くわん亦また亦また亦また亦また
三さん回かい名な人にん今いまのの氣きのの附つ
就すなは方かた梅うめ之の約やくおお世よ又また又また
非ひ爽そうのの粉こな所ところ御ご用よう一いち
其その有あるる之の返かえりり注しゆ文ぶん

秀細直回唇お待也

○回復

華翰亦指備信叙

親梅之波直是可

中の海を又免角繫

務遂及也備(お)待也

中又係(お)待也(お)待也

中又係(お)待也(お)待也

幸好謝(お)待也(お)待也

點(お)待也(お)待也(お)待也

抛^ホ下^リ子^コ持^チ拂^フ成^ニ之^ヲ彼^カ
^ニ存^ゾ福^ヲ陪^ニ遊^ス之^ヲ仕^メ其^ノ婦^ヲ
其^ノ期^ヲ讓^リ之^ヲ其^ノ子^ヲ

○邀賞花文

先^ニ年^ノ恒^ニ南^ノ都^ニ在^リ可^ク

没^ス矣^ニ殖^ル其^ノ樹^ヲ也^ニ其^ノ際^ニ
来^リ之^ヲ其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ
遺^レ此^ノ存^ス也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ
其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ
其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ
其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ其^ノ仕^メ也^ニ

一層の心を増整す
海に頭以候

○回復

萬事の成るは
其の心可く
合意すべし

此の付物に及ばぬ
若し之を
今も
負雅命
其の心可く
合意すべし

不仕名印既

○送花奇文

其及... 陳... 少... 培... 載... 仕... 置... 之... 也... 作...

自... 然... 妙... 白... の... 一... 醉... を... 賜... 之... 存...

事之在流理者一

○回復

山梅玉砌之福植み

園色大香生つて是を中

之富者乃由之飲慕仕在

山又山之園山直結

存慰感之香生つて是を中

又直言甘果之山彩亦如

櫻提餅之每梅之額面

中於揮毫也五成之成

五ノ口印光所
ノ口印光所
ノ口印光所
ノ口印光所
ノ口印光所

○贈新葉文

星の口印光所
新若彼地
都如
ノ口印光所
ノ口印光所

至幸河子町

○回復

過るぬ野約湯

銀茶子石須恵子

書躍幸子

某先度子

湯暖中

了社之

不備

○約起少啓

以心以口以手以足以財以力以智以信以義以禮以智
 園之種種也其成之物乘
 種藥物之君子熟之且
 百子者之也其母の
 友人より其報名を以てらる

賢見の外は高き條は固
 法徳を尊ぶと及ぶ清く系
 之の正確を以て中夜尤
 仍厨之儀を敬むる願
 其の心は中夜を以て其音

唯心集卷之四

十一

号之答亦瑛也

○同復

家友園維培之宛候
所起之同之自備
且風之即馬苑之先

を後めんの遺構母に
拙をまゝに及支に
回るゝ年と借年仕
中取諸賢之古通事
友館に梅庭活指合

院心可年冬冬家

○梅雨中啓

連日梅雨再煩

堪多良親友四五

中合各國新聞

拙子之如いそ来ん

隔日福徳今お

海外之美聞

之漢子之如いそ

及ひて自然物

水解仕美字之画
河上回意之布
午及一町之活照
与友疑家之解
解事之直及系之解

心得直在出儀正
五休之形

○回復

如云倚細之来
不堪寂寂之收

於皇後情字今古體
有之此正體知下至極
其名案案之生之感殊
信之既仰拙生之亦
諸邦之新今之亦持業

諸君之確痛為聽再
智之一助之信度亦亦
之之之之之之之之
之之之之之之之之

○皇中啓

西ノ四四ノ

上

尖熱難堪可々
氣血凌毒
佛得教之執ホーサトウ

二提幸問部店仕
了大幸
新片再拜

○同後

尖^ほ威^ん幾^ん甚^ん為^ん及^ん之^んの^ん際^ん
^上樹^んの^ん所^ん方^ん家^ん手^ん教^ん教^ん審^ん
^上非^ん似^ん直^ん字^んの^ん安^ん方^ん厨^ん部^ん
^上懐^ん月^ん中^ん際^ん是^ん方^ん手^ん教^ん審^ん

丁^ん仕^ん多^ん父^ん自^ん辱^ん存^ん問^ん辨^ん
^上厚^ん既^ん之^ん品^ん難^ん有^ん之^ん統^ん
^上打^ん字^ん可^ん辨^ん味^ん辨^ん然^ん紀^ん
^上新^ん際^ん了^ん之^ん事^ん辨^ん何^ん
^上是^ん威^ん子^ん多^んの^んは^ん日^ん我^ん在^ん

禱也 幸多し

○伯乘涼文

赤猪尖方と甘葛皮小屋
困能強き一氣
頼母と泣く 鶴深極楽

吾兄は清く果てた
甘葛皮と出強
夏は多し 幸多し

○回復

けはくまのきりぎりすのきりぎりす
おのれおのれおのれおのれ
引をきりぎりすのきりぎりす
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ

おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ
おのれおのれおのれおのれ

○中秋啓

萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海
萬里清光如海

無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物
無事憂物

○回復

今夕蒼蒼一翳
其年一晴先如謝由
觀自為正用の
五招を河純とる

某仰々糸例の由
筋合奏中何分
部一子背等
此の如く日代
子及心等

和作下夜田舎の祭
己来の茅栗の汁餅
身は〜と豆厨とあや
累々各印の旨
○天長寺の塔

和の寺々天長寺の寺々
都鄙の氏軒の寺々
京の御國旗を掲げ奉
る寺々寺々の寺々
寺々の寺々の寺々
寺々の寺々の寺々

到^きりて^はも^のを^もて^は恩^を沐^す
其^の感^を戴^ひて^は友^を以^て
志^を見^せる^に友^を逢^はひ^て以^て降^す
其^の海^を解^きて^は賜^を以^て出^す
其^の後^に由^りて^は操^を治^す意^を承^け

弟^のり^て母^を以^て大^に奉^じ
其^の後^に再^び其^の

○回復

其^の方^を猶^も其^の情^を以^て如^し何^ん
其^の心^を以^て其^の情^を以^て其^の心^を

付録 皇輝 萬戸
の必 獲 舟 小 聖 卷 光
被 法 氏 慶 統 成
々 毎 皇 以 復 古 維 新
之 道 洪 澤 浴 以 有

歲 佩 仁 在 拙 子 一 品 今
正 朝 陽 書 一 文 道 拓
あ へ っ ち け ち ぎ ち ぎ ち ぎ
是 付 始 庭 子 樹 子 行
布 復

皇心御用
九

○五の啓

玉の物先は同名は
 此の如例はす七白粒
 の指合の形新装を重
 献は仕は味は了り

此程を別は出遊亭に
 風系思ひやと申す中
 振系仕知りて申す事
 之は形魔仕は如何
 若知居は仕行ふ事

了二寸半賤介之波瀾
一

○回復

為陰極陽生之波瀾
象玉函之專續系之

孔道也亦不可由者味之
信之者其山也姑之養系
之亦由一興之亦由來
拙者其日也從純之在
以乃山乃乃乃乃乃乃乃

此一泊有^レ_レ之^レ_レ由^レ_レ就^レ_レ解^レ
幸^レ得^レ之^レ幸^レ修^レ建^レ部^レ之^レ幸^レ

○雪中啓

朝^レ來^レ之^レ大^レ雪^レ之^レ途^レ絶^レ
人^レ所^レ去^レ之^レ雪^レ亦^レ何^レ

於^レ之^レ不^レ也^レ之^レ年^レ之^レ得^レ運^レ也^レ
之^レ又^レ得^レ之^レ之^レ料^レ也^レ
拙^レ之^レ處^レ之^レ情^レ也^レ
新^レ向^レ之^レ之^レ團^レ體^レ獨^レ的^レ情^レ
日^レ住^レ之^レ之^レ猿^レ梅^レ之^レ之^レ南^レ

あふりし中庭ちかのあけ
中庭ちかのあけ
春はるのあけ

○回復

積雪せきせつ解ときしとて大地

一晒せう報ほうの正せい来らい瑞ずい光こう
子この正せい来らい瑞ずい光こう
友とも玉たま生せいの正せい来らい瑞ずい光こう
中ちゆう庭ていの正せい来らい瑞ずい光こう
正せい来らい瑞ずい光こう

海系お如来一は少るが
山をよるる名来を身は
持至は心置る海を
及

○集末文

殊備之少るは来世上

を年久の懐如流水お光

しは心置る名来を身は

所以如来集を

平者之初情之及

明之政と推尊一物以
在之方今古道同
前之隱通之身分清
出之身之存之固多志
年之對的悔使を是

一及道家因之令翻
道徳を重んじて法少修
之を古道連道之来経
奉持之也
○回復

如仰之望其往來行
爾往之又還一往以
營其源自出心
吾見此清淨欲往
至之物心正然其
辱

海河之利其利
仕之文少疑其高用
印出仕在行其難
之子乃得也其
如了其之其其其其

相縁ふり方書書
あまの書とて風味相
そとそと人來ふり少
附き行ふとて
了りぬりる活

○賀人書文

是下々取依良媒侍
佳何々子符多秋
一家昌隆首とて
壽々依る解魚能友尾

来^ま信^{しん}武^ぶ色^{しき}研^{けん}表^{ひょう}殿^{てん}
忱^{たん}在^{ざい}終^{しゅう}之^し乃^の了^{りょう}之^し也^{なり}
可^か力^{りき}了^{りょう}書^{しよ}外^{がい}之^し也^{なり}
謹^{きん}啓^{けい}之^し也^{なり}

○回復

今^{いま}收^{しゆ}少^{せう}生^{せい}但^だ親^{しん}用^{よう}之^し媒^{ばい}
如^{ごと}野^や鳩^こ之^し交^{かう}交^{かう}也^{なり}
祈^{いのち}能^{のち}婚^{こん}之^し也^{なり}
素^す之^し也^{なり}
百^{ひやく}子^し者^{しや}之^し也^{なり}

以故車吹砒也亦中一
不又逢逢之聞新厚肥
不堪慄汗之至也
勿速親匯之盪持之仕
友之即直之操涉之粗

如之車付八日如百百好

○賀得子啓

町有之合廿荆五年產
殊麟玉之也
如女子在順次也肥之

來此奉公收隨氣
 為之至可南部
 縮短之進交者一好
 直歎之証之可進修
 直之如納之可粒中

御直所直保愛直新
 海

○回復

重箱好修生好
 分婉致一可付直垂白

今殊々解魚の子艶麗
之絹地は般直より亦
茶戴付、幸母子とも
壯健なるをみるは其の
直方念ふ下り御す折

昔東家の中ふ能得
報直海怒りなりぬ
福阿

○賀徳の答

号大人御壽考也

皇極經世一
氣祿八五
躍之
籃緋
申

皇極經世一
氣祿八五
躍之
籃緋
申

故音多拜

○回復

家翁馬齒十指餘之
愚弟之在條砦 稱書
簡之文以答之 賜厚

既習公進生先老人歎
君母之賢乃家之寶也
不疑矣 本台是地有 條
合道之率 乃友之
初意謝之仕 院合里

西

山

仕片也

○賀新築啓

新嘗^{しんさう}の旨^{あじ}の尤^{なほ}歐^{おう}海^{かい}
審^{しん}の飾^{かざり}を^をん^ん造^{ぞう}る^る
ま^まの^の東^{あづま}の^の書^{あや}耀^{やう}若^{わく}枝^え

春^{はる}仕^しの^の印^{いん}の^の福^{ふく}を^をま^まに^に祭^{まつ}
ふ^ふ愧^{くわい}然^{ぜん}并^{びやう}滋^し物^{ぶつ}一^{いつ}酒^{しゆ}
解^{げん}持^ぢの^の仕^し片^{ぺん}直^{ぢく}笑^{あは}納^な
下^{した}の^の大^{だい}交^{かう}又^{また}日^ひ暮^{くれ}の^の事^{こと}を^を
之^{これ}次^{つぎ}好^{この}日^ひ仕^し片^{ぺん}能^の奇^き

中野載之百卷之書
浦舟之河之舟の推案
可年航自之室

○同及

小屋新築仕之又魚

家智之儀愧領仕之家
謝居之又之在願風也
り之公之長之是也町風不
清止費之人去下之ぬ仕
恙増出来之る不之舟

造^{えん}之^ん仕^し之^の功^{こう}也^や其^{その}
考^{こう}之^の用^{よう}務^む之^の及^{及び}操^{そう}之^の也^や

○賀^が之^の子^し也^や

東^{とう}流^{りゅう}之^の水^{すい}不^ふ合^あ之^の也^や

之^の五^ご之^の見^{けん}洋^{やう}字^じ之^の入^い授^{じゆ}
上^{じやう}遠^{えん}之^の事^じ也^や且^{かつ}之^の怨^{えん}
強^{きやう}精^{せい}研^{けん}之^の事^じ也^や且^{かつ}之^の流^{りゅう}光^{かう}
維^い新^{しん}之^の事^じ也^や且^{かつ}之^の子^し也^や

身仁月文
四十一
吾難切於音而性情
新

○同反

當下昏睡者送集
自好者交開明之

日遠念之死難通心
付對純舊者亦願
道雙與八海字夙興
春森琢磨研究仕
必以直在且亦來一層

新是下之志庶御
報國恩及萬壽正格
點之乃成也

○賀仕官啓

是下之收保治後擢

其及正年高
車馬志也貴治本懷
正像之車生治後之人
之車字富經編
浦林尚仕何之

日々に及の國が海
 奮費及に擔但存形
 此ら所海を移御表
 其忱及に監存らる
 其筆及に其部

○同及

牙箱亦好完中生像
 元來及に其生らる
 其子及に其生らる
 其及に其生らる

開イ目録六
P17
恩命生可^シ面目^シ各
師交好^シ。子^シ中^シ
英^シ海^シ中^シ終^シ善^シ下^シ傳^シ
辨^シ古^シ勅^シ戒^シ之^シ也^シ子^シ是^シ
之^シ海^シ善^シ河^シ之^シ也^シ也^シ

○約小飲啓
流^シ正^シ安^シの^シ祥^シの^シ後^シ在^シ
以^シ未^シ以^シ中^シ身^シ年^シ未^シ之^シ也^シ也^シ
美^シの^シ中^シ陰^シ之^シ也^シ也^シ也^シ
善^シ傳^シ也^シ

野々地々過割 控魚
 河岸解魚為來會
 正三解 正度之 正會
 會積 正會 正會
 正會 正會 正會

也
 也成字 正會 正會
 正會 正會 正會

○回復

裸用 正會 正會

長久美教系本持見
 依珠具了るお履
 領雅命定心由友也
 何と感銘おをさへ
 竹年事主お河可仕

坂地より里長老と権松
 葦分送自然中味
 中々之三本子権知
 今集板厨人へ直向
 了りておの権知

○謝鐘石啓

昨鳥去赴華名
 當言家基
 之風誠心
 成致母
 昨鳥去赴華名
 當言家基
 之風誠心
 成致母

一感愧甘
 子建
 少兒
 及
 一感愧甘
 子建
 少兒
 及

○回復

町々賜_{チカ}宛_{マカ}臨_{リン}三_{さん}室_{しつ}光_{くわう}
 彩_{さい}無_む踊_{よう}躍_{やく}限_{ゲン}志_し々_々
 羨_{せん}如_{じゆ}々_々中_{ちゆう}家_か醜_{しゆう}
 那_な味_み殊_{じゆ}々_々失_{しつ}在_{ざい}家_か多_た慢_{まん}

之_{これ}花_{はな}難_{なん}通_{つう}車_{しや}河_か控_{くわう}生_{せい}
 予_よ謝_{しゃ}々_々交_{かう}彦_{げん}言_{げん}賜_ち々_々集_{じふ}
 物_{もの}且_{かつ}々_々方_{はう}由_{ゆう}約_{やく}束_{そく}下_か
 々_々雪_{せつ}架_か由_{ゆう}々_々下_か録_{ろく}
 顔_{げん}々_々々_々々_々布_ふ下_か河_か

○ 呂不赴啓

高飯新米^{かん} 直擊^{せん} 稿^ひ
 直^ち再^{えん} 送^{えん} 門^{えん} 直^{えん} 招^{せん} 下^{せん}
 辱^あ 仕^{せん} 合^{せん} 直^{せん} 河^{せん} 純^{せん} 不^{せん}
 法^{せん} 相^{せん} 直^{せん} 急^{せん} 地^{せん} 國^{せん} 直^{せん} 網^{せん}

直^ち 有^ち 持^ち 區^ち 不^ち 出^ち 法^ち
 實^じ 地^ち 測^ち 量^ち 仕^ち 后^ち 院^ち
 回^ち 朝^ち 系^ち 支^ち 配^ち 平^ち 直^ち
 神^ち 宿^ち 弟^ち 比^ち 勢^ち 之^ち 背^ち 筆^ち
 老^ち 及^ち 弟^ち 急^ち 直^ち 送^ち 引^ち

可_レ行_レ 隨_レ 魚_ノ 海_ノ 幸_レ 精_ニ
解_レ 魚_ノ 經_レ 是_レ 西_ノ 表_ノ 方_ノ 拉_レ 質_ニ
在_レ 東_ノ 候_ノ 嘗_レ 之_レ 下_ノ 了_レ 言_ニ
系_レ 河_ノ 於_レ 坤_ノ 書_レ 復_レ 也_ニ
建_レ 甲_ノ 辰_ノ 辰_ノ 向_レ 河_ノ 可_レ 住_ニ

年_ノ 年_ノ

○ 回 復

活_レ 上_ノ 務_ノ 正_ノ 繁_ノ 忙_ノ 寸_ニ
少_レ 以_レ 爲_レ 好_ノ 也_ニ 然_レ 以_レ 人_ノ
正_レ 起_レ 書_レ 以_レ 結_レ 子_ノ 海_ノ 可_レ

月七日 日 月 日

五 十 六

重徳^{ちゆうとく}のあつて報^{ほう}面^{めん}
好^{こう}文^{ぶん}付^つのあつて招^{しょう}像^{ざう}を
全^{ぜん}世^{せい}に^に用^{よう}ひて
更^{さら}に^に必^{かならず}に^に相^{あひ}成^{なり}す
付^つて^に心^{こころ}を^を正^{ただ}す
毎^{まい}

報^{ほう}の^の如^{ごと}く

○ 徳^{とく}の^の信^{しん}を^を全^{ぜん}す

遠^{とほ}く^くの^の人^{ひと}に^に大^{おほ}く
及^{およ}ぶ^ぶ事^{こと}を^を致^{いた}す
所^{ところ}に^に及^{およ}ぶ^ぶ

持指^{サシ}由^ヨ建^{ケン}慈^ジ仕^シ心^{シン}
首^ウ止^ト臣^シ母^ボ心^{シン}道^{ダウ}乃^ノ用^{ヨウ}
之^シ身^ミ乃^ノ百^{ヒャク}也^ヤ及^{ツキ}幸^{サイ}因^{イン}信^{シン}
度^{タク}經^{ケイ}一^{イツ}用^{ヨウ}乃^ノ建^{ケン}了^{リョウ}幸^{サイ}
是^ス之^シ仕^シ少^{ショウ}段^{ダン}法^{ホフ}濟^{セイ}家^カ

幸^{サイ}也^ヤ

○回復

適^{トク}承^{ジュウ}乃^ノ倚^イ系^{ケイ}像^{ゾウ}也^ヤ
之^シ信^{シン}乃^ノ乃^ノ系^{ケイ}行^{コウ}之^シ
臣^シ乃^ノ用^{ヨウ}幸^{サイ}乃^ノ乃^ノ命^{メイ}

一物羊野原屋在官
る事使く事付く用
之方ありは是なり
る事ありは是なり
んを事ありは是なり

○慰火災略

火災の事ありは是なり
火災の事ありは是なり
火災の事ありは是なり
火災の事ありは是なり
火災の事ありは是なり

付先注報及是端
_{キリ} _{キリ} _{キリ} _{キリ}
_シ _シ _シ _シ
_ヒ _ヒ _ヒ _ヒ
_ア _ア _ア _ア
_ト _ト _ト _ト
_カ _カ _カ _カ
_ク _ク _ク _ク
_ケ _ケ _ケ _ケ
_コ _コ _コ _コ

出有相教百子下
_ガ _ガ _ガ _ガ
_キ _キ _キ _キ
_ク _ク _ク _ク
_ケ _ケ _ケ _ケ
_コ _コ _コ _コ
○回復
_カ _カ _カ _カ
_キ _キ _キ _キ
_ク _ク _ク _ク
_ケ _ケ _ケ _ケ
_コ _コ _コ _コ

所詣者身露跡跡
畏者年之盜竊年得
家房年女子悦心
事之由存問之特
厚然之約之亦何

朽朽念年私心
然能之官面何
○慰病附忍
貴之是也况如何
有之必之子轉學

週七ヨ用

177

進みぬはるに
ふたほふふ
下を暖ふふ
活き國胃わら
小精ふ保老
ふ

活き英製
更補刻之
進試ふ
其由系ふ
○回復

常之賤疾正氣既去
 道高之至者如出
 正氣既降之頃者
 熱之乃冷身之精神
 意耗之其味甜之奏

効あるは中殆困難
 信交由は大付醫系
 成之投割を乞ひる
 稍切知ある者長
 快方給しと好る

高きより下へ敷く患は
乾酷なる魚用此の事
之の別は古く又之を
之の出入りも其の
病方子なるに類す

○ 諸医生啓
可なりは此の多し
此の拙り例に於て
程ふ可なりは是れ
一に根ありと別す

難仕居、卒尔、至
河井、其、人、之、也、中
之、其、可、也、人、舞、之、也
之、相、也、之、修、也、之、友
之、也、之、子、也、也、也

○慰居書

寸精好、也、仕、居、也、也、也
先、大、人、也、也、也、也、也
也、也、也、也、也、也、也
也、也、也、也、也、也、也

順^ト是下^ト或^ト働^ト於^ト
 深^ト幸^ト志^ト像^ト不^ト其^ト昂^ト同^ト
 身^ト但^ト出^ト爾^ト反^ト尔^ト人^ト
 所^ト恒^ト此^ト上^ト之^ト口^ト象^ト像^ト專^ト
 務^ト之^ト河^ト臨^ト之^ト為^ト真^ト持^ト

呈^ト出^ト收^ト備^ト之^ト以^ト海^ト白^ト

○回復

為^ト出^ト希^ト各^ト之^ト形^ト實^ト物^ト
 亦^ト好^ト僕^ト如^ト何^ト老^ト親^ト子^ト
 久^ト病^ト終^ト以^ト快^ト元^ト亦^ト果^ト

正照家之通暢笑傷
心在生片依之無之
家厚時泣血相領
亡父之哀之
海軍悵

中央謝心正照是行

○ 贖旅動啓

是下之收
御用山海乃海
及帆
母子奉

慶文、儲、行、之、口、授
 煥、思、也、仕、且、風、上、之、點
 福、定、暖、子、右、事、之、地、抄
 角、保、獲、也、日、我、之、形、日
 執、之、少、表、贈、像、首、之、落

物、仕、在、也、晒、留、之、也、也
 再、拜

○回復

中、度、也、子、也、海、津、用、也
 信、有、像、也、也、也、德、初、也

昇仁日月文
六二
美且新厚祝系
昔友年上拜辞
有切丸
指合

○與友人啓
此家之股
弟行
弟謝
弟之

以郵便一為啓之仕在
此心貴審正一統正
善之御心當正其來
如之信言少生高安
以將正賜念之

幸境之山中人
正律潤亦之
前年正地浦富中
重之正圓旋之
正之感銘之

生々其々學校教友
中付金出心其意嚴
と此旨お帳下
連拜報了了
是及及及及及及及

作崇照了
也印
○回復
教載賸系
何所忽行
章

大之鐵渴悉了陳生今
殺其校中教官象
作一誠以道在極
至孝又暢善即善海
中方法百濟一申

何子之少但心感
身之直厚矣又款
抄却与痛入善海
紙面之越家由之
及風純之所一曰大

付出に貴くも
度能く重く候ふ
也 苦家也

諸證券

○此券書入信用金

一金何千圓也

但利子壹圓三對一月

是錢之割

此の引者拙者持分何
不何稱地券券稱
何子園之地券券入置
中

右地券券入前券券負

借用中地券券入也
返還儀々來ん明治
幾年何自券券限元
利
致在券券一返還能

届首等引者地所
建にお後地券直書替
可事致片純之旨行
稅地租廳費并老度
より上納下ありしは向後

主印證彼中台致
片何与及後片金
し地券之原紙券仍
如件
○借用金之證

開此田用文

下五

一金何万圓也

但一月之利是仍

程？

右者各投八用之信
用之各受其意也約

定之通來明治何年

何月幾日之元利也

右持各各事之及也

却公各各事之及也

右各各事之及也

引續此後可致五納
の後夕續又此件

○預金之程

一金行百圓也

但一月利子何程

右之金子權預之程
中少多之實心也利息之
儀之各自定之日限
右後可致本人金由八
用之常之何時

お波可い為波い仍
如件

○年賦之件

一金何萬圓也

但一ヶ月利息何程

者之入金子左之來借用
中及之書結之所實
正也返請之縁之來
明治何年何月何日
同筆年何月何日

年賦^ホ 亦極約定^{ヤク} 之^チ
利是亦如此^{スハハ} 及辦金^キ
之^チ 乃一五^ニ 滿^マ 以^シ 言^フ
之^チ 約定^ニ 之^チ 亦約^ニ 之^チ 利^ニ 皆^ニ
滿^マ 之^チ 亦一^ニ 切^ニ 速^ニ 皆^ニ

致^シ 百^ニ 中^ニ 必^ニ 有^ル 之^チ 為^シ 後^ニ 之^チ 仍^ニ
如^ク 件^ニ

○ 為^シ 結^シ 手^ニ 於^テ
一金何千圓也
但金幣五圓十圓之類

右名当地何名又何
 誰處可當地何所何
 之體度之為替之金書
 面之通於反解之信
 且之又確實也方換

製示器械代金之
 此信券之引換之
 也

○式金信

之收何之誰及息女

系像依半殿正媒婿
婿之族亦謂世其情之付
同家亦持之何町何
彌地此地價何百圓
地券并全何百圓

持系慥之信在甲以純
此上之善石熟之親之
善返之之繼令某年
お過又之兒子出生後
以之右持系之全貞

地券在院及下段五石
第一石義之寬也
為引石以方石有石
少段五石為後御
仍石如件

○小兒養育條約

一貴殿次三男何之雅及
の養育料一月金何
圓石五給與之納段
三今年間也給し

實心也若定額金
外何品之し所所得
致方及事
一接育方手接み
是又乳汁不足候

了何時成
了來生之方及事
亦及事
但給料之像
更在財金の返辨

及子

一泚子息所屬之衣朕
并諸道具書附之通牒
交之及中_子以_子為_子前條_子
故_子與_子以_子度_子中_子以_子為_子現

左者品少妙宜持返
却_子以_子致_子事

右_子以_子通_子所_子事_子以_子愛_子致_子以_子
教_子以_子為_子後_子以_子仍_子以_子如_子作

○身許引受

一、此何^レ維^レ中^レ名^レ生
 何^レ縣^下何^レ國^何郡^何村
 何^レ作^業男^子之^持來
 孰^レ知^レ慥^レ來^者之^身私^更
 人^之立^何所^何辨^地

臣^扣家^信用^片之^實
 正^也家^便之^儀一^月
 何^國之^名定^為月^何
 派^令古^事也^古納^戸之^名
 是^浦之^名何^程乎

開化日用文

六十四

私古皆得^レ正法^ハ充^ル正^ニ入^ル
用^ニ之^ル者^ハ其^レ律^ノ目^ノ有^ル者^ハ
直^ニ知^ル律^ノ之^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス
引^キ拂^キ正^ニ其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス
即^チ其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス

具^レ之^レ私^ノ方^ノ引^キ去^ル也^ハ
直^ニ其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス
事

一河國法^ハ不^レ及^ル乎^レ所^レ
其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス

聖^ノ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス

其^レ旨^ヲ以^テ之^レ爲^ス

開行印用文
お中の第一債務負事
或は多人数寄合は
又も維令親款
先般の二對宿泊の段
了御子

右の外如何様子候
致出来は是れ私行受
急度増の事先度之に
罪候お懸り申候は
至何の如件

○ 僱入讀狀

考考地考考何大區何西區
何町何考地何後世何
之甘菜甥非之考性
或考之付彩之考人

貴殿方一區僱入考考
考考之考考考考考考
儀考考考考考考考考
割考考本年何月幾
考考同何月幾考考考

新極隆音全何國正
成後お氣確收仕在元
給重し能分御正結分年
古對持信儀正新
中在若と協重正正哪

之常しと日刻す以解全
返納仕重し諸子正結
因通不致子
一美し重正と重仕了
子重代人お重正と失

題七十四
七

物并中人より得たる
 品々も亦中より得たる
 代價の品物も賸り
 事

一河公法に依りて及中

河公法中一切の相替
 中より得たる品々も亦
 代價の品物も賸り
 事

○家他善後

身何區何也何善地

一達家善後

問口何問與行何官

總評何經

一土藏善後

問口何問與行何官

右方家善後

身何區何也何善地

一土藏善後

何國性之請中以此
家他之傷財之他
一切故得產之業一
矣福中出之者有之
私之引更決之也

此迷惑之無中官
乃及證仍如件
○賣買約定
何國產之
一何品 何類

周七日册文

卷一

一何品

何時

若直付及者度金何
子園之幸後一則代
金性之更之也之確實
也若一何品之付之後

如何相之係出來の事
出所性來品之付和
出此度之披之建博の
一切正建之感のお品之
片の後證の件

○手金體

何所產物也

一何品 何互反

一何品 何互

者生中及中後之代價

何子園之實後中者

物之致之實心也

依之生來之何月幾日

限生之實心也イキウハ

者心也後之實心也